

「4技能測る」必要性の再考を

阿部公彦・東京大学教授(英文学)

問題点を指摘する声は何年も前から多数あり、今回の決定は遅すぎた。この失敗をしっかりと検証する必要がある。今後の英語教育や試験のあり方については、理系分野なども含む広い領域から知見を集め、議論してほしい。4技能という言葉

葉が多用されてきたが、日本語でも「読む・聞く・話す・書く」の力はでこばこなものだ。4技能を均等に身につける、測るとはどういうことなのか精査する必要がある、「4技能を測る」ことへのこだわりは再考するべきだ。